



現状維持バイアスについて

1. 案件概要

- ・大型建機の販売・保守を行う会社の人事制度の改定
- ・収益の柱であるサービスエンジニアの育成には10年かかる
- ・手塩にかけたエンジニアの退職→ビジネスモデルの維持に陰り
- ・シニア社員の更なる活躍、技術承継、モチベーション向上のために、既存の再雇用制度を見直し、定年延長をおこなう

2. プロジェクトで起こったこと

・総人件費へのインパクトが大きく、打ち合わせを重ねるごとに、カウンターの常務の姿勢が保守的になり、徐々に 現状に似た制度設計に(現状維持バイアス)

3. 当時の私の行動

- ・人件費原資を踏まえた経営判断として間違いではなく、案件は順調に進捗と評価
- ・「PJキーマンである常務の意向=会社の意向」と捉え、保守的な設計を継続

4.PM の行動

- ・「本来の目的が達成できない」
- ・「お客さまの言った通りに作っていてはコンサルに依頼する意味がない」

5. 結果

- ・実施目的を振り返り、現状、成り行きの未来、ありたい未来を比較
- ・会社にとって本当に必要な設計を提案
- ・実施目的の達成に向けた、現状からの変化を目指す設計内容に至る

6. 振り返り

- ・現状維持バイアスにかかっていたのは自分だった
- ・「視野」「視座」「視点」をお客さまに合わせていたつもりだったが、いつのまにか固まっていた(ことに気付けなかった)
- ・自身の中で感じた「うまくできている」という認識こそが間違い

7. これからの私の行動

- ・「視野」「視座」「視点」は動かし続けるもの。固まったら何かを見逃す
- ・「できている」と思ったら即、自分を疑う